

## 2016年7月実績概要（メモ）

（2016. 8. 25）

前月は多数の品目で減産となったが、当月は定期修理も一巡し前月に対して大幅な増産。

### 1. 生産動向

イ) エチレン 499,400トン

前月比 +11.7% (+52,300トン)

前年同月比 ▲10.7% (▲59,800トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3 %	-
定修要因等	+ 8.5 %	▲ 6.2 %
能力増減	-	▲ 6.5 %
稼働率変動	▲ 0.1 %	+ 2.0 %
生産増減率	+11.7 %	▲10.7 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.4%→当月95.3%←前年同月93.6%

定修プラント：前月2社2プラント→当月2社2プラント←前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、稼働日数の増加に加えて定修規模の減少からLD、HD、PP、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、EG、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの14品目でプラスとなった。AN、SBR、BRの3品目は稼働率要因や定修規模差からマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因等からHD、PP、SM、EO、EG、SBRなどの11品目がマイナス。LD、MMAモノマー、BR、キシレンなどの6品目はプラスとなった。

### 2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では日数の増加と併せて定修規模が減少したこともありLD、HD、PP、PSの4樹脂揃って大幅なプラスとなった。

前年比では、定修規模差と稼働率要因からLDのみがプラス、HD、PP、PSはマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、前月においては供給が絞られる中、出荷レベルとしてはやや高め水準にあった。このため、LD、PPは当月はマイナス、HDは供給量の増加もあり前月に続いてプラスとなった。

前年比では、ポリオレフィンでは、前年が輸入品の減少が続いていたこともあり、国産品の出荷が総じて堅調であったが、当年は輸入品が前年に比べて若干の増加傾向にあることも影響しLD、HD、PPでマイナスとなった。PSは前年の出荷がちょうど落ち込んだ時期にあたりこれとの比較でプラスとなった。

ハ) 輸出

国内向けへの出荷を中心としている状況には変化なく、当月はLD、HD、PPで前月比、前年比ともにマイナスとなっており、特に前年比では大幅なマイナスが継続している。PSは数量が少ないが前月比、前年比ともプラスとなっている。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対してLD、PSで増加、HD、PPで減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HDは上昇しPPは横ばい、PSは低下した。在庫水準としてはLD、HD、PPはほぼ適正、PSはややタイト気味となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		6月末	7月末
LD	+ 8,200	2.7	2.8
HD	▲ 6,700	2.6	2.7
PP	▲29,200	2.6	2.6
PS	+ 1,100	1.3	1.2

以上